

令和 2 年 7 月 2 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H01895

研究課題名(和文) 東南アジア大陸部宗教研究の新パラダイムの構築

研究課題名(英文) Toward a New Paradigm of Studies on Religions of Mainland Southeast Asia

研究代表者

片岡 樹 (Kataoka, Tatsuki)

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授

研究者番号：10513517

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 24,800,000円

研究成果の概要(和文)：本共同研究からは、成立宗教の教義を偏重した宗教理解や、その反動としての単なるシンクレティズム礼賛を乗り越えるうえで、ひとつのフィールドで複数のゲームが同時に稼働している状況に着目することの重要性が、また、そうした新たな視座のもとで、タイ、ミャンマー、カンボジア上座仏教徒社会における仏教と非仏教的伝統との競合や、中国雲南やベトナム、東南アジア華僑社会における大乘仏教と上座仏教との競合などを動的に説明しうる可能性が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、近年の大陸部東南アジア宗教論の分野で提唱されるレパトリー論や(ポストモダン型)シンクレティズム論から予想される限界を乗り越えて、新たな宗教理解の枠組を提案したことにある。また社会的意義としては、日本宗教史論のアナロジーを意識的に持ち込むことで、日本社会から見た等身大の東南アジア宗教像を提示しえたことである。

研究成果の概要(英文)：Findings of this joint research show that multi-game approach is effective to understand actual religions in mainland Southeast Asia in order to overcome shortcomings of existing doctrine-centered approach as well as syncretism theory, and that this approach can enlarge our scope to interpret dynamics of religions in the region, in which Theravada Buddhism, Mahayana Buddhism, and non-Buddhist traditions coexist in competition.

研究分野：東南アジア研究、文化人類学

キーワード：東南アジア 仏教 シンクレティズム 精霊祭祀

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

従来の東南アジア宗教論は、国家ごとに制度宗教をとらえ、それを民族単位に把握するという方法によって行われてきた。そこから抽出されてきたのが、「タイ仏教」「ビルマ仏教」「山地宗教」「中国系宗教」などといった図式であり、その図式を前提に構成されるパラダイムである。これら一連のパラダイム群の特徴と問題点は、おおよそ次のように要約される。

1) 教団中心・出家者中心の視点：マジョリティである平地社会を上座仏教社会と位置づけ、国家単位に組織された上座仏教教団としての僧院を視座の中心に置く研究群がそれにあたる（石井 1975 など）。そこでの問題は、近代国家によって再編成された仏教教団が自明の前提とされるため、そこからこぼれ落ちる領域が不可視となってしまう点である。

2) シンクレティズムの視点：仏教とその他の宗教的伝統といった複数の宗教システムの存在を前提とし、それらの諸システムが仏教の優位のもとに調和的に統合されているとする研究群がそれにあたる（Tambiah 1970 など）。そこでの問題は、仏教とそれ以外の宗教的伝統との階層的関係がアプリアリに指定されるため、複数の宗教的伝統に由来する多様な因子から構成される現代東南アジア宗教の動態をじゅうぶん把握できない点である。

3) 民族別住み分けの視点：宗教の民族別住み分けを前提とし、平地仏教徒諸民族については上記の視点を適用する一方、山地社会については平地仏教文明へのアンチテーゼ、華僑華人社会については中国的伝統の維持・継承を主題化する研究群がそれにあたる（近年の例としてはスコット 2013, Formoso 2010 など）。そこでの問題は、平地仏教徒社会、山地社会、華僑華人社会の宗教がそれぞれ自己完結的に描写されるため、民族をまたいで共有されている宗教的イデオロムへの接近が困難になってきた点である。

以上の問題点については、すでに近年いくつかの指摘がなされている。たとえばパッターナーやマクダニエルは、タイ国を事例に、上記の視点では、急速に断片化し、複数の民族、複数の宗教的伝統に由来する要素が複雑に混交する現代東南アジアの宗教の動態を適切に記述できないことを指摘している（Pattana 2005, McDaniel 2011）。

2. 研究の目的

ただし上記の一連の問題提起は、既存の研究パラダイムの不備を指摘するものであり、その問題提起を発展させ、既存のものに取って代わる新たなパラダイムの構築は依然として今後の課題に残されている。本研究がめざすのは、まさにこの課題に取り組むことである。それにあたり、本研究では次のような視点から共同研究を行った。

A) 東南アジア宗教論における民族的分業の再検討。

B) 東南アジア宗教論における制度宗教単位に分業（上座仏教、大乘仏教、民間信仰等）の再検討。

C) 東南アジア宗教論における出家・在家関係モデルの再検討。

これらはそれぞれ上記の3) 2) 1) にそれぞれ対応する。論理的な段階としては、まず第一に、研究の民族的分業による一種のタコツボ化を打破する必要がある。東南アジアの宗教はこれまで民族単位で把握されてきたため、この第一の作業は、制度宗教単位に分業の相対化という第二の課題を必然的に伴う。さらに第三段階では、それまでに得られた知見をもとに、出家・在家関係をとらえ直す。具体的には、従来の上座仏教モデルで等閑視されてきた在家者の領域を拡充し、在家者仏教と民間信仰、山地民や華僑華人の宗教を架橋する図式を構築するとともに、それに応じて僧院仏教モデルの再検討も行う。第三段階での知見からは、次のような事実が明らかになるはずである。すなわち、東南アジア大陸部諸国において仏教徒が統計上の多数派を占めるという事実は、実は今まさに述べたような雑多な現実――上座仏教における出家主義と在家主義、さまざまな伝統に由来する民間信仰、山地民や華僑華人など少数民族の宗教――を仏教というカテゴリーで一括していることを反映しているのである。そうであるならば、以上の一連の検討を経て得られるモデルは、東南アジア社会の現実をかなりの程度まで等身大に反映したものとなるだろう。そのモデルの提示をもって既存のパラダイムに換え提案するのが、最終段階において本研究のめざすところである。

3. 研究の方法

本研究の遂行に際しては、A) 民族間分業の相対化（一年目）、B) 宗教間分業の相対化（二年目）、C) 出家・在家関係の相対化（三年目）の順に、それぞれ年度ごとに班を編成し班単位での集中討論を、また最終年度には全体での論点集約および成果の公表を行った。

本研究の研究方法は、その学際的性格のため複数の方法論にまたがる。メンバーの背景に応じ、文化人類学、社会学、地理学の現地聞き取り調査に基づく研究、歴史学、言語学、インド哲学の文献研究をそれぞれ併用する。なお、本研究の対象はタイ、ミャンマー、カンボジアが中心だが、より広い視野から東南アジア大陸部全体に通じる問題提起を行うため、比較対象としてベトナム（メコンデルタにおいては民族・宗教構成などが前記三国と共通性が高い）、マレーシア（特に華僑華人系の上座仏教徒は前記三国と課題を共有する）、中国雲南（特にタイ族地区は民族・宗教

構成において前記三国と多くの条件を共有する)を含めるべく、当該地域の専門家もメンバーに含める。また、研究分担者のみではカバーできない幅広い知見を集約するために、タイ国のベトナム系大乘仏教(タイ国の華僑華人の宗教において大きな比重を占めている)を研究する清水政明(大阪大学。言語学)、ベトナムの宗教を研究する北沢直宏(京都大学大学院。宗教社会学)と同じく下條尚志(京都大学。歴史学)およびタイ国の宗教を研究する林育生(京都大学大学院。文化人類学)を研究協力者に加えた。

専門分野としては文化人類学者を中心とするが、本研究分野の性格に鑑み、宗教学、社会学、地理学、インド哲学、言語学の専門家をもメンバーに加え、東南アジア地域の特徴を学際的かつ立体的に把握することを試みた。

4. 研究成果

本共同研究では、以上の視点から、東南アジア大陸部諸国(中国雲南を含む)の宗教をとらえなおすことを試みてきた。そこからは、東南アジア宗教の動態を論ずるにあたり、以下のような領域に可能性があることが明らかになった。

まずひとつは、日本宗教論との比較が予想以上に有効だということである。そのひとつは、民俗宗教論である。これは日本民俗学や日本宗教史の分野において、成立宗教(これは多くの場合外来宗教としての仏教をさす)か固有信仰か、という固定的な二者択一の図式を回避し、両者が相互に影響を与え合う中で形成されてきた信仰の動態をさす語として用いられてきた。この概念を東南アジアに援用することで、制度化された仏教と土着民間信仰との二項対立ではなく、その相互交渉により生じた神格や在俗宗教者などを可視化することが可能となる。

もうひとつは顕密体制論である。顕密体制論というのは、日本中世史研究者の黒田俊雄が、中世期の日本宗教をとらえ直すべく提唱した概念である(黒田 1980, 1994)。そのなかでも、本共同研究にとって重要なのは、神祇崇拜(神・神社・神官)が仏教(仏・寺・僧)にとっての世俗としてその従属部分を構成する、という知見である。この点に関し参考になるのが、日本の民間信仰研究に黒田顕密論を応用した白川(2007)と中西(2006)の議論である。特に白川は、神道=固有信仰と仏教がそれぞれ別個に存在し、それがのちに習合したという一般的な神仏習合の理解をしりぞけ、神祇崇拜はそのはじめから顕密仏教システムの構成要素として発展してきたと主張し、神仏習合に由来する日本の民間信仰を、オーソドクシーとしての顕密仏教のもとに、種々の従属部分が雑多に結びつく多配列クラスとしてとらえなおすことを提唱している。この白川の主張は、仏教を主たる触媒とし、タイ系、インド系、中国系のさまざまな神々や施設や職能者などが包摂されているようなシステムをどう記述するか、という上述の問題を考える上で、大きな示唆を与えるものといえる。ここからは、神のゲームを仏のゲームの従属部分として、その在家部門に包摂するという重層的な複ゲームの姿が見えてくる。

複ゲームという視点は、中国雲南における、東南アジア上座仏教圏と漢民族的宗教の影響圏の接点においても新たな分析視角を提供しうる。漢族、ダイ族などが暮らす雲南省徳宏州では、民族や仏教宗派の違いを超えて観音信仰が広まっている。その信仰の在り方には、上座仏教的伝統の強弱や漢語の普及程度、民族間交流の歴史などの条件によって、複数のパターンがあるように見受けられる。徳宏のこのような状況は、「漢化」「シンクレティズム」「ハイブリディティ」などの概念で表現されがちだが、そうした単純なラベリングでは多くの重要な論点を見過す恐れがある。ここに複ゲームという補助線を持ち込むことで、漢民族的大乗仏教と東南アジア的上座仏教の二つの伝統が、緊張関係を伴いながら二つの極として共存し、人々はその極のあいだで、異なる濃淡をもって自らの実践を構成していることが明らかになる。

東南アジア宗教の複ゲーム状況は、それが析出される過程の分析にも有効である。たとえばタイ国において、仏教徒と称する人々の少なからざる部分がインド系の神々をも崇拜したり、あるいはルシーと呼ばれるインド系の行者に帰依したりしているという現実がある。また近年では、巨大ガネーシャ像などが各地に建てられるなど、現世利益崇拜とも結びついてインド系の信仰がタイ仏教徒の宗教生活への浸透を強めている。ただしこれを、どれが仏教でどれがヒンドゥー教だと腑分けすることは、人々の動機づけを理解する上であまり生産的ではない。また、こうした事例が紋切り型の仏教像を相対化するものだとしても、単にそれを仏教徒のレパートリーだと指摘するだけでは、何も論じていないに等しい。むしろそこで問われるべきは、そうした信仰が析出されるありかたである。たとえば人気を集めるルシー廟やガネーシャ廟などは、商業化の波に乗って一種のテーマパークとして信者に売り出されている。しかもそうした宗教テーマパークは、SNSへの投稿写真向けの演出を積極的に行うことでマーケットを確保しようとする。そうしたSNSを通じて表出されるコミュニケーションそのものが、人々にとってのルシーやガネーシャの意味を作り出しているのである。

同じことは、ミャンマーのタイツと呼ばれる神々にも当てはまる。タイツというのは、ミャンマーにおいて1990年代以降顕著になり始めたとされる霊的存在であるが、それが仏教に由来するのか、それとも土着精霊(ナツ)に由来するのかについては、解釈の一致を見ない。タイツのみを単独で扱う宗教専門家の不在や、民主化後爆発的に普及したSNSの利用もあり、タイツに関する言説や信仰は、雑多で時に相互に矛盾する多様な断片の集積体となっている。むしろそうした、SNSを通じた断片化された人々のコミュニケーションを通じて、タイツはその輪郭をあらわにしていくという意味では、タイツの存在を漠然と前提とした仮定的なコミュニケーションそのものが、タイツの存在を具体化させていく契機となっているのである。

以上は、東南アジア大陸部の、広義の仏教圏に属する社会の分析から得られた知見である。ここからは、今後に向けたいくつかの課題が生じることになる。それらはいずれも、仏教をどう位置づけるか、という問題への回帰として展開されていくことになるだろう。この点に関し、本共同研究から見えてきた論点を最後に三つほどあげておきたい。

1) ひとつの方向は、仏教という概念自体を棚上げすることである。これは、パッターナーやマクダニエルのラディカルな問題提起を引き継いでいく先に見えてくる視点である。彼らの研究を参照しつつ、分析対象としての仏教をいったん解体し、それをいくつかのゲームのクラスターとして再編成したとして、そこではもはや仏教というのは、あくまで複ゲームの選択肢のひとつを構成するものにすぎず、しかもそれは成立宗教や国家権力の論理に基づく一方的なラベリングに過ぎない、という見かたも可能になるかもしれない。神や仏が織り成す東南アジア宗教の動態を記述する上で、仏教というのはあってもなくてもよい概念になる、という可能性である。

2) もうひとつの方向は、だからこそ仏教を正面からとりあげる必要が生じる、というアプローチである。東南アジアの宗教を複ゲームのクラスターに分解されつくしたとして、なお残るのは、カンヤーが指摘したような序列のあり方であり、そこでは常に仏の論理が神や呪術の論理を上位で包摂するものとなっている。顕密体制論を参照した場合でも同様であり、結局は一見無秩序に見える神々や宗教者やさまざまな施設が、仏の優位のもとで多配列的に整除されていることが見えてくるのである。ならば、この仏教という名でよばれる緩やかなまとまりを記述する用語を手放すわけにはいかない。むしろ、そうして新たに見出された、雑多な言説の緩やかな統合体としての仏教を改めて定義し、論じなおす必要が生じる、という可能性である。

3) 最後の方向は、ここでみてきたような和製アイディアが、はたして現地の宗教学と建設的な対話を生み出しうるのか、という点である。

参考文献

- 石井米雄. 1975. 『上座部仏教の政治社会学 国教の構造』創文社.
- 黒田俊雄. 1980. 『寺社勢力』岩波新書
- _____. 1994. 「中世における顕密体制の展開」『顕密体制論 黒田俊雄著作集第二巻』法蔵館、45-182頁。
- 白川琢磨. 2007. 「神仏習合と多配列クラス」『宗教研究』81巻2号(通巻353号): 25-48.
- 杉島敬志. 2008. 「複ゲーム状況について」『社会人類学年報』34: 1-23.
- 中西裕二. 2006. 「"ネイティブの人類学"のもう一つの可能性 黒田俊雄と神仏習合の人類学的理解から」『文化人類学』71巻2号: 221-242.
- McDaniel, Justin T. 2011. *The Lovelorn Ghost and the Magical Monk: Practicing Buddhism in Modern Thailand*. Columbia University Press.
- Pattana Kitiarsa. 2005. "Beyond Syncretism: Hybridization of Popular Religion in Contemporary Thailand." *Journal of Southeast Asian Studies* Vol. 36, No. 3: 461-487.
- Tambiah, S.J. 1970. *Buddhism and the Spirit-cults in North-east Thailand*. Cambridge UP.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 村上忠良	4. 巻 18
2. 論文標題 シャンの在家仏教徒朗誦の特徴 タイ国内の仏教文書朗誦との比較より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 年報タイ研究	6. 最初と最後の頁 59-72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 矢野秀武	4. 巻 37
2. 論文標題 世俗性の弱いタイ社会において、宗教研究はいかなる形でなされているのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 駒澤大学文化	6. 最初と最後の頁 94[85] -69[110]
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 片岡樹	4. 巻 18
2. 論文標題 タイ国ブーケットのババ墓碑にみる文化的土着化	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 年報タイ研究	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Hidetake Yano	4. 巻 12(1)
2. 論文標題 Religious Activities of Administrative Agencies and the Relation between Religion and the State in Modern Thailand	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Journal of Community Development Research (Humanities and Social Science)	6. 最初と最後の頁 71-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） https://doi.org/10.14456/jcdr-hs.2019.7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藏本龍介	4. 巻 6
2. 論文標題 組織の人類学に向けて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 南山大学人類学研究所 研究論集	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hayami, Yoko	4. 巻 31(2)
2. 論文標題 Karen Culture of Evangelism and Early Baptist Mission in Nineteenth Century Burma.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Social Sciences and Missions	6. 最初と最後の頁 251-283
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.1163/18748945-03103006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 KURAMOTO, Ryosuke	4. 巻 4
2. 論文標題 Monks' Lives Shaped by Food: A Case Study in Myanmar.	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Religious Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 47-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 矢野秀武	4. 巻 36
2. 論文標題 上座仏教圏における宗教と国家 - 宗教関連制度に関する基礎情報 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 駒澤大学文化	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kono Yasuyuki, Kobayashi Satoru, Krishna Bahadur, Hori Mina, Kong Sothea, Phon Sovatna, Hem Oudom, Teng Lipean and Heng Sokchea	4. 巻 11
2. 論文標題 Interim survey report on livelihood transition studies in Pursat province, Cambodia	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Agroforestry and Environment	6. 最初と最後の頁 21-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Geslani, Marko, Bill M. Mak, Michio Yano, Kenneth Zysk	4. 巻 5
2. 論文標題 Garga and early astral science in India	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 History of Science in South Asia	6. 最初と最後の頁 151-191
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://journals.library.ualberta.ca/hssa/index.php/hssa/article/view/21	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 片岡樹	4. 巻 13
2. 論文標題 「架空の識字力 現代タイ国における漢文經典の知識をめぐって」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『華僑華人研究』13号: 7-26.	6. 最初と最後の頁 7-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 藏本龍介	4. 巻 90(2)
2. 論文標題 「『食』が形づくる出家生活」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『宗教研究』	6. 最初と最後の頁 29-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藏本龍介	4. 巻 8
2. 論文標題 「モラルを超えたモラル：現代ミャンマーにおける仏教の公共的役割についての考察」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『コンタクト・ゾーン』	6. 最初と最後の頁 15-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 津村文彦	4. 巻 16
2. 論文標題 「美しくも、きたないイレズミ タイのサッカー試論」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『年報タイ研究』	6. 最初と最後の頁 39-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢野秀武	4. 巻 35
2. 論文標題 「タイ国王における多様な宗教的特質」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『駒澤大学文化』	6. 最初と最後の頁 73-98
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計31件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 片岡樹
2. 発表標題 山茶と冷戦 東南アジア大陸部山地の人口変動をめぐって
3. 学会等名 東南アジア学会第99回研究大会（2018.5.26-27於北九州市立大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片岡樹
2. 発表標題 廃社を拝む 愛媛県菊間町の祭祀にみる「神々の明治維新」
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会（2018.6.2-3於弘前大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Tatsuki Kataoka
2. 発表標題 Toa Peh Kong and Pun Thao Kong: Variations of Chinese Guardian Spirits of Locality in Southeast Asia
3. 学会等名 Paper presented at the international workshop on “Chinese Temples in Southeast Asia” (at National University of Singapore), February 28-March 1, 2019. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小林知
2. 発表標題 カンボジアにおける移行期正義の二重構造がもたらした問題
3. 学会等名 東南アジア学会第99回研究大会（2018.5.26-27於北九州市立大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林知
2. 発表標題 サンガハの研究：経済発展下のカンボジア農村における脆弱性の拡大と宗教実践の多様化
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会（2018.6.2-3於弘前大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukako IKUNI
2. 発表標題 I Won't Take Even 1/100 Kyat: Donation and Trust in Local 'Parahita' Organizations
3. 学会等名 The 2nd Burma Review And Challenges International Forum 2018 (@愛知学院大学) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯國有佳子
2. 発表標題 ミャンマーにおける女性修行者の出家生活と律
3. 学会等名 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2018年度第2回国際シンポジウム (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 矢野秀武
2. 発表標題 タイにおける宗教研究の歴史と現状
3. 学会等名 駒沢宗教学研究会第184回例会 (2018.7.6 於駒澤大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 矢野秀武
2. 発表標題 世俗主義の弱いタイにおける宗教研究の現状
3. 学会等名 日本宗教学会第77回学術大会 (2018.9.8 於大谷大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 黄蘊
2. 発表標題 マレーシアとシンガポールの上座仏教徒のインド仏教聖地巡礼と仏教徒たちの実践
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会（2018.6.2-3於弘前大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏本龍介
2. 発表標題 ミャンマーにおける出家者の開発実践の変遷と行方
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会（2018.6.2-3於弘前大学）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 藏本龍介
2. 発表標題 現代ミャンマーの僧院生活
3. 学会等名 龍谷大学アジア仏教文化研究センター2018年度第2回国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 下條尚志
2. 発表標題 統治と生存の社会史 脱植民地化以降のベトナム南部メコンデルタ多民族社会における世界観と国家
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会(2018. 6. 2-3於弘前大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋美和
2. 発表標題 仏教教学はジェンダー秩序を変えるか カンボジアにおけるアビダンマ学習の現場から
3. 学会等名 国際ジェンダー学会2018年大会 (2018. 9.1-2於聖心女子大学)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 片岡樹
2. 発表標題 神様未満? 東予の牛鬼に関する予備調査報告
3. 学会等名 日本文化人類学会第51回研究大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Tatsuki Kataoka
2. 発表標題 Literacy as Charisma: 'The Lost Book' and Prayer of the Lahu in Thailand and Burma.
3. 学会等名 SEASIA 2017 Conference (at Chulalongkorn University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kobayashi Satoru
2. 発表標題 Diversity and Vulnerability: Do recent changes cause a loss of resilience of rural livelihoods?
3. 学会等名 SEASIA 2017 Conference (at Chulalongkorn University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Takahiro Kojima
2. 発表標題 Lay Experts in Reciting Buddhist Texts in Contemporary Myanmar
3. 学会等名 SEASIA 2017 Conference (at Chulalongkorn University) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoko Hayami
2. 発表標題 Building pagodas and constructing charisma in the Myanmar-Thai border region
3. 学会等名 13th International Conference on Thai Studies (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 片岡樹
2. 発表標題 「タイにおける漢文經典朗誦」
3. 学会等名 東南アジア学会第95回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 片岡樹
2. 発表標題 「ヤシガラ椀の外をフィールドで学ぶ 東南アジア大陸山地民研究再考」
3. 学会等名 東南アジア学会第95回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tatsuki Kataoka
2. 発表標題 “ Indigenization and Exclusiveness: Truth Claim and the Redefinition of Religion among the Lahu Christians in Thailand. ”
3. 学会等名 AAS-in-Asia Conference 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Tatsuki Kataoka
2. 発表標題 “ Straits Chinese outside the Straits: Baba-ness Reflected in Epigraphs of the Baba Cemeteries in Thailand. ”
3. 学会等名 9th International Conference of the International Society for the Study of Chinese Overseas (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yukako Iikuni
2. 発表標題 “ Where Western and Indigenous Sciences Integrate: A Case Study of the Healing Practice in Myanmar ”
3. 学会等名 IUAES Inter Congress 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Fumihiko Tsumura
2. 発表標題 Mechanism and efficacy of magical treatment of shingles in northeastern Thailand ”
3. 学会等名 IUAES Inter Congress 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 津村文彦
2. 発表標題 「見えないタトゥーをもつこと 東北タイにおけるサックヤンにみる可視と不可視」
3. 学会等名 日本文化人類学会第50回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 津村文彦
2. 発表標題 「ルークテープ人形の流行 人形向け航空券の販売報道をめぐって」
3. 学会等名 東南アジア学会第95回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 池田一人
2. 発表標題 「仏教ポー・カレン文字の成立過程とプータマイツ伝説の再検討」
3. 学会等名 東南アジア学会第95回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小島敬裕
2. 発表標題 「現代ミャンマーにおける在家仏教徒の朗誦専門家たち」
3. 学会等名 東南アジア学会第95回研究大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 高橋美和
2. 発表標題 「カンボジアにおけるエイジング・家族・ジェンダー 仏教寺院止住者調査より 」
3. 学会等名 第43回日本生活学会研究発表大会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 小林知
2. 発表標題 「カンボジア = タイ国境地域におけるコミュニティの形成と生業転換」
3. 学会等名 第26回日本熱帯生態学会年次研究大会
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計16件

1. 著者名 増原綾子、鈴木絢女、片岡樹、宮脇聡史、古屋博子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 出版社：有斐閣	5. 総ページ数 324
3. 書名 はじめての東南アジア政治	

1. 著者名 片岡樹（分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 「妖術師の肖像 - タイ山地民ラフにおける呪術観念の離床をめぐって - 」川田牧人・白川千尋・関一敏編 『呪者の肖像』	

1. 著者名 村上忠良（分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 「タイ北部におけるシャンの在家朗誦師の活動」、川田牧人・白川千尋・関一敏編『呪者の肖像』（pp. 145-162.）	

1. 著者名 小林知（執筆分担）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 586
3. 書名 「サンガハの可能性と限界 カンボジアにおける萌芽的なケアに関する一考察」速水洋子編著『東南アジアにおけるケアの潜在力 生のつながりの実践』	

1. 著者名 飯國有佳子（執筆分担）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 「日常から呪術への跳躍：ミャンマーにおける『上道の師』と『精霊の妻』の憑依実践」川田牧人・白川千尋・関一敏（編）『呪者の肖像』	

1. 著者名 矢野秀武（分担執筆）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 262
3. 書名 「上座仏教とナショナリズム 国家主導の宗教的ナショナリズム」、池澤優責任編集『いま宗教に向きあう 4 政治化する宗教、宗教化する政治 世界編2』	

1. 著者名 津村文彦（分担執筆）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 「イカサマ呪者とホンモノの呪術 - 東北タイのパラモン隠者リシ」川田牧人・白川千尋・関一敏編『呪者の肖像』	

1. 著者名 速水洋子（編著）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 596
3. 書名 『東南アジアにおけるケアの潜在力 生のつながりの実践』	

1. 著者名 片岡樹（志賀市子編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 420
3. 書名 潮州人 華人移民のエスニシティと文化をめぐる歴史人類学	

1. 著者名 片岡樹（桑山敬己、綾部真雄編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 381
3. 書名 詳論文化人類学	

1. 著者名 津村文彦（福岡まどか・福岡正太編）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 スタイルノート	5. 総ページ数 478
3. 書名 東南アジアのポピュラーカルチャー：アイデンティティ・国家・グローバル化	

1. 著者名 宮原暁編、宮原暁、木村白、小林知、長坂格、島園洋介、小池誠、信田敏宏、横田祥子、原めぐみ、伊藤眞、市川哲、床呂郁哉、新井健一郎、尾上智子、片岡樹、小河久志、東賢太郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 366
3. 書名 『東南アジア地域研究入門2社会』	

1. 著者名 Paul T. Cohen (ed.), Katherine A. Bowie, Anthony L. Irwin, Mikael Gravers, Sean Ashley, Amporn Jirattikorn, Tatsuki Kataoka	4. 発行年 2017年
2. 出版社 NIAS Press	5. 総ページ数 266
3. 書名 Charismatic Monks of Lanna Buddhism.	

1. 著者名 高城玲（編）・飯國有佳子・中野紀和・吉留公太・杉田弘也・阿部克彦・八尾祥平・大場絵里・古谷伸子・泉水英計・廣田律子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 212
3. 書名 『大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い』	

1. 著者名 川橋範子、小松佳代子（共編）、飯國有佳子、小林奈央子、嶺崎寛子、磯部美里、松尾瑞穂	4. 発行年 2016年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 240
3. 書名 『宗教とジェンダーのポリティクス：フェミニスト人類学のまなざし』	

1. 著者名 パーリ学仏教文化学会上座仏教事典編集委員会編、飯國有佳子、矢野秀武、高橋美和等、藏本龍介、小島敬裕、小林知、著	4. 発行年 2016年
2. 出版社 めこん	5. 総ページ数 686
3. 書名 『上座仏教事典』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	黄 蘊 (Huang Yun) (10387384)	尚綱大学・文化言語学部・准教授 (37404)	
研究分担者	小島 敬裕 (Kojima Takahiro) (10586382)	津田塾大学・学芸学部・准教授 (32642)	
研究分担者	矢野 秀武 (Yano Hidetake) (20422347)	駒澤大学・総合教育研究部・教授 (32617)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	長谷 千代子 (Nagatani Chiyoko) (20450207)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授 (17102)	
研究分担者	小林 知 (Kobayashi Satoru) (20452287)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	高橋 美和 (Takahashi Miwa) (40306478)	実践女子大学・人間社会学部・教授 (32618)	
研究分担者	津村 文彦 (Tsumura Fumihiko) (40363882)	名城大学・外国語学部・教授 (33919)	
研究分担者	池田 一人 (Ikeda Kazuto) (40708202)	大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・准教授 (14401)	
研究分担者	村上 忠良 (Murakami Tadayoshi) (50334016)	大阪大学・言語文化研究科（言語社会専攻、日本語・日本文化専攻）・教授 (14401)	
研究分担者	下條 尚志 (Shimojo Hisashi) (50762267)	静岡県立大学・国際関係学研究所・助教 (23803)	
研究分担者	速水 洋子 (Hayami Yoko) (60283660)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・教授 (14301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藏本 龍介 (Kuramoto Ryosuke) (60735091)	東京大学・東洋文化研究所・准教授 (12601)	
研究分担者	今村 真央 (Imamura Masao) (60748135)	山形大学・人文社会科学部・准教授 (11501)	
研究分担者	飯國 有佳子 (Iikuni Yukako) (90462209)	大東文化大学・国際関係学部・准教授 (32636)	
研究分担者	MAK BILL (麥文彪) (Mak Bill) (50747863)	京都大学・白眉センター・特定准教授 (14301)	